

神大スポーツ

KU

2019年7月1日(第33号) 月曜日

発行:神奈川大学
協力:神奈川大学体育会本部

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL045-481-5561

日本代表選手特集

ユニバーシアード初出場!!

4月27日(土)・28日(日)に開催されたJOC杯2019年度全日本ジュニアレスリング選手権大会(国際経営・2年)が大会2連覇を達成。また優秀選手としてオリンピックゴールドメダル賞を受賞し、自身2度目となる、世界ジュニア選手権大会(以下世界ジュニア)の日本代表に選出された。



古林 穂菜
水泳部

4月27日(土)・28日(日)に開催された第95回日本選手権水泳競技大会(以下日本選手権)兼第18回世界選手権大会代表選手選考会兼第30回ユニバーシアード大会水泳競技代表選手(以下ユニバーシアード)選考会にて、古林穂菜選手(経済・4年)が女子50m背泳ぎ5位、100m背泳ぎ3位、200m背泳ぎ4位の好成績を残し、ユニバーシアード日本代表に内定した。



水泳部は古林選手に限らず注目選手が多く在籍する。日本選手権では、石坂夏鈴主将(人科・4年)が200m個人メドレー7位、望月絹子選手(人科・2年)が800m自由形4位、荒川葵選手(人科・1年)が50m自由形6位と数々の好成績を残している。また、昨年度の第94回日本学生選手権水泳競技大会(以下インカレ)においても、女子チームが創部初の準優勝を達成するなど、近年の成長が目覚ましい。石坂主将は「新一年生も結果を出

している選手が多く、非常に良い雰囲気である。ただチームとして強くなるためには、4年生が責任と自覚を持って活動に取り組んでいく必要がある」と話してくれた。活動について「毎週末に試合を控える選手も多いが、距離を泳ぐメニューが多くなっている。また学年ごとにミーティングを実施すること、目標の確認をおこなっている」と石坂主将。続けて「ただ結果に結びつきにくい選手も多いが、種類別で練習をすることが多いが、時間があるときに積極的に声掛けを行い、選手のメンタル面をサポートしている」と話してくれた。主将を中心に、フィジカル・メンタルの両面のコントロールを徹底することが、水泳部の強さの秘訣なのだろう。



世界ジュニア選手権
アジアジュニア選手権

日本代表!!



奈須川 良太
レスリング部

最後に「世界ジュニアでは必ず表彰台に上りたい。会場の雰囲気にも負けないよう、全力で試合に臨み、去年以上の成果を持ち帰れるようにしたい」と熱い思いを語ってくれた。世界ジュニアで表彰台に立っている姿を期待したい。

奈須川選手は「2連覇を達成でき、非常に嬉しい。ただ考え込みすぎて慎重になる場面も多かったが、世界ジュニアは改善して臨みたい」と振り返る。奈須川選手は、全試合を無失点、第一ピリオド勝利を収めており、向かうところ敵なしの状況である。ただ常に課題を意識し、自己成長に励んでいる姿に意識の高さを感じた。2度目の世界ジュニアを控えて「海外選手は、序盤から全力で攻め込んでくるが多く、自分のペースを崩されることが多い。全試合を乗り切る為にも、実践形式の練習を休みなく繰り返し、身体を作り込んでいきたい」と意気込みを聞かせてくれた。

4月27日(土)・28日(日)に開催されたJOC杯2019年度全日本ジュニアレスリング選手権大会(国際経営・2年)が大会2連覇を達成。また優秀選手としてオリンピックゴールドメダル賞を受賞し、自身2度目となる、世界ジュニア選手権大会(以下世界ジュニア)の日本代表に選出された。



佐川 健
レスリング部



アジアジュニア選手権
初出場!!

初大会でレコローマンススタイル97kg級にて、佐川健選手(国際経営・1年)が準優勝に輝き、アジアジュニア選手権大会(以下アジアジュニア)への初出場を決めた。

佐川選手は「入学後初の試合であり、大学生のパワーの違いを感じた。準優勝できたことは嬉しいが、あと一歩で優勝に届かなかった悔しさもある」と話してくれた。高校からレスリングを始め、好成績を残している佐川選手だが、神奈川大学レスリング部について「神大レスリング部の練習メニューはしっかりとっている。自主的に練習していないと成長ができないと実感した。やらされるのではなく、考える練習にシフトしたい」と話す。大学1年生からしっかりと自主性を持って活動している姿が見受けられた。



最後に「今年度の目標は『大学日本一』である。インカレにおいても昨年度の成績を超える戦いをしたい」と熱く語ってくれた。今年もレスリング部から目が離せない。

神奈川大学レスリング部は、昨年度の文部科学大臣杯平成30年度全日本学生レスリング選手権大会(以下インカレ)において、過去最多となるメダル数を獲得や、4月22日(火)・23日(水)に開催された2019年度JOC杯ジュニアクイーンズカップ女子フリー53kg級で、阿部ちひろ選手(国際経営・1年)が3位に入賞と、年々好成績を収めている。

山内壮主将(国際経営・4年)は「昨年度は、飛躍した1年となり、今年度はそれを越える活動をしていきたい」と語る。新入部員について「入部早々、大会で活躍する部員も多く、活気のある練習が日々送られている。高校生と大学生との違いをしっかりと理解し、自立した生活を心がけて欲しい」とも話してくれた。神大レスリング部は、自主性を非常に大事にしている。大学生活も練習も自立した行動を徹底していることが、強さの秘訣なのだろう。



QRコードからアクセス

今後の活躍に期待!! 神大アスリート特集



山本珠優主将(国際経営・4年)は今年より攻撃的なシステムや戦い方に変えて挑んだリーグ戦。選手たちはリーグ戦を通して成長し新しいスタイルにも手応えを掴んできている」と話してくれた。

練習について「試合にすぐに活かせるよう、強度が高い実践形式の練習が多い。現在の攻撃力をもっと強化したい」と語る山本主将。

4月14日(日)〜6月2日(日)に開催された第25回関東女子サッカーリーグ(以下リーグ戦)1部前期を1位で勝ち点22の4位で終えた女子サッカー部。リーグ戦1部優勝を目指し、後期の戦いが始まった。



女子サッカー部

WOMEN'S FOOTBALL

今年こそインカレ優勝を目指して!!

また、新しい試みとして、ビーチサッカーとフットサルを強化・育成に取り入れている。フットサルでは、今年から神奈川県女子サッカーリーグへ参戦している。



白井達也主将(経済・4年)は「昨年度は、県リーグへ降格と非常に悔しい思いをした。今年度は、関東リーグ2部復帰に向けて、県リーグを全勝で駆け抜けていく」と話してくれた。今年度、より強いチームになる為に、サッカー部は以下の行動目標を掲げている。

1回のFootball 1の実施、7月1日の選手ミーティングの実施、凡事徹底の3つである。

「Football+1」は今年度より監督に復帰した大森西三郎監督が考案した行動であり、地域に貢献する活動を通して人間として成長を目指すものである(※詳しくは、3面指導者インタビュー参照)。「サッカーの練習と並行して、地域貢献やミーティングを繰り返していくことで、選手1人1人に限らず、チームとしての成長を実感している。メンタルコントロールがしやすい環境を創り、強豪校との試合に臨んでいきたい」と白井主将は話してくれた。



サッカー部

FOOTBALL

関東リーグ2部復帰に向けて!!



第92回全日本学生スキー選手権大会(以下インカレ)男子2部にて春日淳選手(2018年度卒)が15kmフリースタイル競技で2冠を達成。団体種目においても3×5kmリレーで優勝を果たし、男子2部総合初の男子1部昇格という快挙を成し遂げた。

山本大門主将(国際経営・4年)は「昨年度のインカレで好成績を収めることができ、非常に嬉しい。また大会を牽引した春日選手の練習に対する姿勢と意識の高さに影響を受けた」と語る。

最後に「今年度の目標は、男子1部残留である。今後は、強豪選手と戦っていくこととなるので、この時期にしっかりとトレーニングを積み、チーム一丸となって試合に臨んでいく」と熱く語ってくれた。今年もスキー部の活躍から目が離せない。



スキー部

SKI

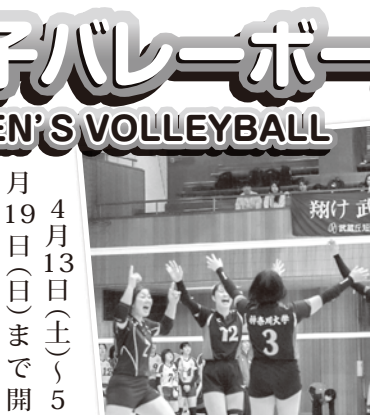
創部初の1部昇格!!



4月13日(土)〜5月19日(日)まで開催された2019年度春季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦(以下春季リーグ戦)で、4勝6敗で4位となり2部残留を決めた。更に、遠藤さやか主将(人科・4年)が4季連続のセッター賞、チームでBest of support賞を受賞し、更なる成長をみせる女子バレーボール部。

遠藤主将は「春季リーグの内容は悪くなかった。例年は、下位の入替戦で2部と3部を行き来していたが、初の入替戦がない残留ができた。チームとしても非常に調子が上がってきた」と話している。

最後に「秋季リーグで、必ず1部との入替戦に出場し、創部初の1部昇格を果たしたい」と熱い思いを聞かせてくれた。今年こそは、女子バレーボール部が1部昇格を成し遂げてくれるに違いない。



女子バレーボール部

WOMEN'S VOLLEYBALL

悲願の創部初の1部昇格へ!!

体育会所属の1年生を対象とした2019年度フレッシュマンキャンプは、6月23日(日)に「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」で開催され、施設内にあるワールドクッキングガーデンにて、全団体の新入生たちが合同でバーベキューを行った。

このキャンプの目的は、体育会各部の横のつながりを強めることであり、様々な団体との混合班で、火起こしから調理、バーベキュー、片付けを行い、お互いの親睦とコミュニケーションを深めた。

1年生は明るく活発で、さすがスポーツ選手と感じさせる協調性や、各班のチームワークを見せてくれ、各々がとても楽しんでくれた。

今回のフレッシュマンキャンプで生まれた絆を超えたつながりを、これからも忘れずにお互いを高め合って、神奈川県体育会の更なる発展につなげて欲しい。

体育会本部 尾澤 美里(人科・4年)



2019年度 体育会入会式

5月14日(火)神奈川県横浜キャンパス16号館セレストホールにて体育会入会式が開催された。本会は体育会に入会する新入生を対象とした行事であり、今年も多くの新入生を迎えることができた。

三浦大介副会長をはじめ、多くの来賓の前で各部活動の主将と新入生が登壇し、今季の抱負が発表された。

新たな出発点に立った新入生は、これから始まる大学生活に多くの期待を抱き、体育会の活動を行っていく。この入会式を機に、神奈川県体育会の一員としての自覚を持ち、チームに貢献できるメンバーになってもらいたい。

新入生の今後の活躍に期待している。

体育会本部 川井 奈美(人科・4年)

今回の指導者インタビューは、2019年3月より神奈川大学男子サッカー部の監督に再び就任した大森西三郎監督に話を聞いた。

大森監督は、中央大学卒業後、選手として海上自衛隊厚木基地マカスの立ち上げに参加。県社会人2部リーグから関東1部リーグ昇格の原動力となる。1998年の神奈川ゆめ国体に監督兼選手として出場し、優勝に貢献。現役引退後、2004年より神奈川大学男子サッカー部監督に就任。同部は、2007年には関東リーグ1部昇格となる。短期間での1部昇格が評価され、湘南ベルマーレフットボールアカデミーディレクターに就任。2011年に、神奈川大学男子サッカー部監督を退くが、2019年3月より監督に再就任した。

「私たちは、勝敗のみを追い求めるのではない。サッカーをツールとして、どう学生を育成していくかが重要だ」と話す大森監督。「重点強化部は、神奈川県体育会の理念に沿った学生アスリート宣言を掲げている。これをサッカー部の全活動に落とし込むことが求められている」と続けて話してくれた。活動の一例として、以前から男子サッカー部が実践している「Football+1」がある。

誕生したきっかけは、海上自衛隊厚木基地マカス時代になる。

「私たちは、勝敗のみを追い求めるのではない。サッカーをツールとして、どう学生を育成していくかが重要だ」と話す大森監督。「重点強化部は、神奈川県体育会の理念に沿った学生アスリート宣言を掲げている。これをサッカー部の全活動に落とし込むことが求められている」と続けて話してくれた。活動の一例として、以前から男子サッカー部が実践している「Football+1」がある。



指導者インタビュー



最後に「私たちのビジョンは『神奈川県体育会アスリート宣言を体現する為に、日本一真面目にサッカーに取り組んで世界を目指すこと』である。その為の組織作りを徹底したい」と話してくれた。大森監督指導の下、男子サッカー部の成長に注目していききたい。

大森監督は、中央大学卒業後、選手として海上自衛隊厚木基地マカスの立ち上げに参加。県社会人2部リーグから関東1部リーグ昇格の原動力となる。1998年の神奈川ゆめ国体に監督兼選手として出場し、優勝に貢献。現役引退後、2004年より神奈川大学男子サッカー部監督に就任。同部は、2007年には関東リーグ1部昇格となる。短期間での1部昇格が評価され、湘南ベルマーレフットボールアカデミーディレクターに就任。2011年に、神奈川大学男子サッカー部監督を退くが、2019年3月より監督に再就任した。

「私たちは、勝敗のみを追い求めるのではない。サッカーをツールとして、どう学生を育成していくかが重要だ」と話す大森監督。「重点強化部は、神奈川県体育会の理念に沿った学生アスリート宣言を掲げている。これをサッカー部の全活動に落とし込むことが求められている」と続けて話してくれた。活動の一例として、以前から男子サッカー部が実践している「Football+1」がある。

「私たちは、勝敗のみを追い求めるのではない。サッカーをツールとして、どう学生を育成していくかが重要だ」と話す大森監督。「重点強化部は、神奈川県体育会の理念に沿った学生アスリート宣言を掲げている。これをサッカー部の全活動に落とし込むことが求められている」と続けて話してくれた。活動の一例として、以前から男子サッカー部が実践している「Football+1」がある。

「私たちは、勝敗のみを追い求めるのではない。サッカーをツールとして、どう学生を育成していくかが重要だ」と話す大森監督。「重点強化部は、神奈川県体育会の理念に沿った学生アスリート宣言を掲げている。これをサッカー部の全活動に落とし込むことが求められている」と続けて話してくれた。活動の一例として、以前から男子サッカー部が実践している「Football+1」がある。



陸上競技部
EKIDEN TEAM

チーム丸となって シード権獲得へ!!

5月23日(木)〜26日(日)に開催された第98回関東学生陸上競技対校選手権大会(以下関カレ)にて、男子3000m SCで西方大珠選手(人科・2年)が4位入賞。男子10000mでは、越川堅太選手(人科・4年)が10位、井出孝一選手(人科・3年)が11位を記録した陸上競技部駅伝チーム。第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下箱根駅伝)本大会でのシード権獲得の為に、新たにスタートを切った。

安藤駿主将(人科・4年)は「関カレでは、怪我で本来の実力を発揮出来なかった選手も多かった」と振り返る。「新入部員も徐々に緊張がほぐれてきているので、調子は上がってきている。今後の選手の飛躍の為に、この時期が正念場だ」と話してくれた。

今年度の新入部員は、入部するの各大会でも活躍している選手も多く、非常に期待が出来るという。「今年度は、選手一人一人の特性を活かして練習に取り組んでいる。自分の体調をしっかりとコントロールして、より良いパフォーマンスを発揮してほしい」と話す安藤主将。自主性を重視した練習や寮生活で、更に進化した陸上競技部駅伝チームになることを期待したい。

最後に「今年度の目標は勿論『箱根駅伝本大会でのシード権獲得』である。その為にも、夏合宿で選手一人一人の強化を図り、チーム一丸となって走り抜けていく」と熱い思いを語ってくれた。今年もシード権獲得に向けて、プラウドブルーの襷が箱根を駆け抜ける姿が非常に楽しみである。



アメリカンフットボール部
AMERICAN FOOTBALL



憧れの舞台! 1部リーグ TOP8へ!!

2018年度関東学生アメリカンフットボールリーグ戦(以下リーグ戦)2部にて7戦全勝を達成。続くチャレンジャーズ・B・I・G戦でも勝利し、1部リーグB・I・G昇格を果たしたアメリカンフットボール部A・t・o・m・s。1部リーグTOP8を目指し、新たなスタートラインに立った。

9月から始まるリーグ戦に向け、坂本アントニム・ウネディ主将(現ビ・4年)は「チーム全員がリーグ戦まで時間がない事を自覚する必要がある。現在戦っている春季オープン戦でも課題があるので、日々の練習でも1プレーにこだわってチーム全体で克服していく」と語ってくれた。そして、4月から新入部員が加わったことについて、「多くの部員は未経験者であるが、我々も教える事によって、プレーについて再認識することが出来る重要な時間になっている」と語り、どんな場面でも個々の成長に繋げる意識の高さが同部の飛躍的な成長に結びついているのだから。

最後に坂本主将は「私たち4年生を主軸としたチーム全体で、1部リーグTOP8昇格を目標に、憧れの舞台で後輩たちが試合に臨み、そして一人でも多くの方に会場に来ていただき『応援して頂けよう』というチームを目標」と熱く語ってくれた。今年も飛躍を続けるアメリカンフットボール部A・t・o・m・sを応援していきたい。



チアリーディング部
CHEER LEADING

新体制で更に進化した応援へ!!

主に重点強化部の試合に駆け付け、笑顔とパフォーマンスで選手を後押しするチアリーディング部。注目すべき点は、チアリーディングの大会には参加せず、神大の応援に特化していききたい。

動をしているところだ。鈴木彩乃主将(経済・3年)は「今年度の新入部員は6名と少なめだが、その分1人1人に費やせる時間も多し。まだ緊張している部員に対して、積極的にコミュニケーションを取っていききたい」と話してくれた。今年度は、選手を空中に飛ばし演技を行うトスの新技練習をはじめ、フラッグやボードを使用した技も増やし、演目の幅を広げている。「同じ演目が続いていると、試合に臨む選手や一緒に応援してくれる観客にも飽きがでてしまう」ともあつ。神大チア部の伝統を守りつつ、変化も入れ込んだ演目を創造していきたい」と話す鈴木主将。「神大」のチアリーディングの在り方に真摯に向き合っている姿が印象的であった。

最後に「時間はあつたという間に過ぎてしまう。練習の質を高め、私たち3年生がしっかりと部を引っ張り、去年よりも成長を遂げたチア部を見てもらいたい」と話してくれた。試合に華を添えてくれるチア部と一緒に各競技で活躍する選手たちを応援していきたい。

文化系だより vol.22



管弦楽やオーケストラと聞くと、楽器未経験では難しく、ましてや大学からとなると、入部へのハードルは上がるのではないだろうか?そんなあなたには、神奈川大学管弦楽団を覗いてみて欲しい。

同楽団の特徴は、コンクール等の大会には参加せず、定期演奏会や箱根駅伝、野球応援などを主な活動としているところである。

「音楽を聴きに來られるお客様に心地よく感じてもらうには、私たちが楽しく演奏できる環境をつくれるかに限る」と話す堀尾拓誠団長(法律・3年)。管弦楽団は、主に週3日活動しており、パトリオターをメインとして、個人の能力をみながら練習に励んでいる。半期に3回は現役プロが直接指導してくれるところも非常に魅力的である。「部員の中には、楽譜が読めない人や学年の途中から入部

管弦楽やオーケストラと聞くと、楽器未経験では難しく、ましてや大学からとなると、入部へのハードルは上がるのではないだろうか?そんなあなたには、神奈川大学管弦楽団を覗いてみて欲しい。

同楽団の特徴は、コンクール等の大会には参加せず、定期演奏会や箱根駅伝、野球応援などを主な活動としているところである。

「音楽を聴きに來られるお客様に心地よく感じてもらうには、私たちが楽しく演奏できる環境をつくれるかに限る」と話す堀尾拓誠団長(法律・3年)。管弦楽団は、主に週3日活動しており、パトリオターをメインとして、個人の能力をみながら練習に励んでいる。半期に3回は現役プロが直接指導してくれるところも非常に魅力的である。「部員の中には、楽譜が読めない人や学年の途中から入部



音楽を心から楽しみたいあなたへ!



大学からはじめられる オーケストラの世界へ♪

